



病虫害防除情報

令和3年4月7日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 ウメのヨコバイ科の一種とアブラムシ類について

2 情報内容

(1) 気象要因等について

3月の平均気温は平年より高く（+3.7℃、熊谷）、4月1日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は、平年より高い確率60%、降水量は、ほぼ平年並です。

(2) ヨコバイ科の一種（*Singapora shinshana* (Matsumura) ・和名なし）

本虫は、令和2年9月に県内で初めて発生が確認されました。成虫の体色は黄緑色で、体長は3～3.5mm、複眼は黒色で頭頂部に黒点があるのが特徴です。

成虫および幼虫が葉を加害し、多数の細かい吸汁症により、葉の表面が白化します。

本年もすでに発生が確認されていますが、本種に対して適用のある農薬はありません。早期発見に努め、速やかに被害葉を除去し適切に処分しましょう。



葉裏に寄生する成虫



本虫被害によるウメの白化葉

(3) アブラムシ類

越冬した卵から3月頃にふ化し、花蕾や新梢に寄生して増殖します。多発すると吸汁により葉が内側に巻く症状が発生します。本年は3月の気温が高かったため、発生時期が早まり、発生量も増える可能性があります。早期発見に努め、寄生が確認された場合には防除を行いましょう。

表1 アブラムシ類の防除薬剤例

薬 剤 名	F R A C コード	使 用 時 期	使用回数
スミチオン乳剤	1 B	収穫14日前まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤	4 A	収穫前日まで	3回以内
アドマイヤー顆粒水和剤	4 A	収穫21日前まで	2回以内
ダントツ水溶剤	4 A	収穫前日まで	3回以内
スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤※	4 A	収穫前日まで	3回以内
アグロスリン水和剤	3 A	収穫7日前まで	3回以内
モベントフロアブル※	2 3	収穫7日前まで	3回以内
コルト顆粒水和剤※	9 B	収穫前日まで	3回以内

※は小粒核果類を対象として登録

(使用基準は令和3年4月1日現在)

3 I R A Cコード及びF R A Cコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、I R A C（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びF R A C（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661